

## 令和元年岩手県奥州保健所運営協議会 議事録

- 開催日時 令和元年 8 月 23 日（金） 18 時 30 分～20 時 10 分
- 開催場所 奥州市水沢地区センター 2 階会議室
- 参集者 別添出席者名簿のとおり  
・委員 19 名中 17 名出席、欠席 2 名

### 【次 第】

- 1 開 会
  - 2 挨 拶
  - 3 委員紹介
  - 4 会長、副会長選出
  - 5 議 事
    - (1) 令和元年度岩手県奥州保健所業務概要について
    - (2) 令和元年度岩手県奥州保健所重点事業について
      - ① 岩手県地域医療構想（胆江圏域）の取組状況及び災害医療対策について
      - ② 胆江地域心の健康づくり対策プランについて
      - ③ 受動喫煙防止対策について
      - ④ 食中毒予防とHACCP制度化について
  - 6 その他
- 

### 1 開 会

《事務局（藤原副所長）》

ただ今から、「令和元年奥州保健所運営協議会」を開会いたします。

### 2 挨 拶

《事務局（藤原副所長）》

開会に当り、仲本保健所長から御挨拶を申し上げます。

### 3 委員紹介

《事務局（藤原副所長）》

次に、委員の皆様を御紹介させていただきます。

お手元にお配りしております「名簿」の順に沿って、御紹介申し上げます。

※（出席者名簿に従い、紹介）

本日は、委員 19 名中、17 名の皆様の出席で、保健所運営協議会条例第 5 条第 2 項に定める過半数を超えておりますので、協議会が成立していることをお知らせします。

続きまして、奥州保健所運営協議会の会長、副会長の選出を行います。

※（事務局一任により、会長に高橋金ヶ崎町長、副会長に関谷医師会長を選出）

《事務局（藤原副所長）》

ではこれより、5の「議事」に入ります。

保健所運営協議会条例第4条第2項の規定により、協議会の会長が議長となりますので、金ヶ崎町長の高橋委員に以後の議事進行をお願いいたします。

《高橋議長》

それでは、次第に従い、進めさせていただきます。

なお、説明がすべて終了してから、委員の皆様からの御意見、御質問などを一括してお受けしますので、よろしくお願ひします。

#### 4 議 事

(1) 令和元年岩手県奥州保健所業務概要について

《高橋議長》

議事の「(1)令和元年度奥州保健所業務概要について」、事務局から説明をお願いします。

《事務局（昆次長）》

別添資料No.1に基づき、令和元年度岩手県奥州保健所業務概要について説明

(2) 令和元年岩手県奥州保健所重点事業について

① 岩手県地域医療構想（胆江圏域）の取組状況及び災害医療対策について

《事務局 平賀主幹兼企画課長》

別添資料No.2に基づき、岩手県地域医療構想（胆江圏域）の取組状況及び災害医療対策について説明

② 胆江地域心の健康づくり対策プランについて

《事務局（齋藤技術主幹兼保健課長）》

別添資料No.3に基づき、胆江地域心の健康づくり対策プランについて説明

③ 受動喫煙防止対策について

《事務局（齋藤技術主幹兼保健課長）》

別添資料No.4に基づき、受動喫煙防止対策について説明

④ 食中毒予防とHACCP制度化について

《事務局（三浦技術主幹兼保健課長）》

別添資料No.5に基づき、食中毒予防とHACCP制度化について説明

《高橋議長》

ただ今の説明に対して、委員の皆様から御意見等をお願いしたいと思います。  
どなたか御質問、御意見ございますでしょうか。

《関谷委員》

この岩手県地域医療構想の取組状況及び災害医療対策についてなんですけど、先ほど聞いたんですけども、この急性期と慢性期の、これ以前から言われているんですけど、これはどこで区別しているかということですね。それとこの病床数も、前回の時にあったんですけども、休床している、いわゆる開業医で休床しているところ、全部含んでやりましたか。それとも変えてもらってるんですか。それともそのまま使ってるんですか。

それと、この地域医療連携会議が遅れてるっていう話がありましたけれども、他の地域で、完全にできている地域があるんでしょうか。私は他の地域の医師会の方に聞いたんですけども、「いや、この胆江地区の地域医療、これすごく、どういうふうな形でできるか、楽しみ」っていう、ほとんどのところははそうなんですよ。で、遅れているっていうとすごくなんか、自分たちも、正直むかつくように感じてしまうんですよ。だからやっぱり一生懸命にこれは奥州市、金ケ崎町に頼んで、今一生懸命に、この市と町の方もやっているのを、遅れてると言われると、そうか？と思うんですよ。ここは先端をやっているのじゃないかなと僕は思っておりますが、それがどういう形で出てくるかという、これ、奥州市や金ケ崎町が一生懸命頭をひねって、どういうふうな形にすればいいかっていうことで、結局これが、この地域のいろんな基本になることなんです。それを、僕は進んでないかって言われるとちょっと「えっ」と思うんですけども。いかがでしょうか。

《藤原部長》

まず地域医療構想につきましては、現在奥州市、金ケ崎町さんと、いろいろと計画を進めていただいていることで、それを踏まえて今後話し合っていくということにしております。

まず病床数につきましては、昨年度と基本的には考え方が変わっているというところはございません。これについては県の方針に従って、今のところ進めていくということにして、いずれ2025年に向けて皆で話し合っ、この地域の病床数をどうしていくかということをお話し合う、一つの目安として考えているものでございまして、これについては考え方を、今、昨年と違う考え方を導入するとか、そういったことは今のところ考えていなくて、今、2年前に作った地域医療構想の病床数に向けて、今後皆で話し合っていくということで進めていくということとでございます。

それから、遅れているというのは確かに書き方としてちょっとまずかったかなと思います。いずれ、一生懸命、現在奥州市と金ケ崎町の方で進めていただいているアンケート、こういったものに基づいて地域医療計画ができてくるということですので、それを踏まえた形で、地域医療構想の調整会議でも、それをベースにしていろいろと話し合いを進めていきたいというふう

に考えております。

#### 《関谷委員》

結局2年前と変わらないということは、そういう昨年指摘された部分も変えていないということですね、県の方で。結局、休床病棟10何か所の有床介護診療所があると。それを全部病床数に入れているわけですよ。それは、ちょっと今使っていないところはおかしいんじゃないかっていう話はしたつもりだったんですけども、結局それも入れて、そのままの数字を使っちゃってるってことですし、それからやっぱり一番問題なのが、どこで急性期と慢性期を分けるんだと。日数にするのかそれとも点数になるかと、前回もその話が出てきたんですけども、その、きちんとした部分を理解できません。

だから、そういうことを踏まえての地域医療計画という、大変なんですよ、本当に。周りの病院や開業医の先生たち、それからいろんな各種団体にいろいろお願いして、今盛んに作って、それがもう本当にこの地域の基本になることなもんで。2年前と変わってませんって言われても、こっちも何となく、そうですかって終わるような感じではないんですよ。やっぱりきちんとその辺の数字は少しでも変わるなら変わる。

それから、その質問は前にもされて、どうやって分けるんだよと、その話の結果もまだ言われてないんです。

そこをどう考えているのか。

#### 《藤原部長》

区分の仕方については県庁の方で検討をさせていただいておまして、次の医療構想の調整会議の時には県庁から来て、また説明があると思います。

今のところ前回のお話の中でも埼玉県で導入している区分の仕方、そういったものも参考にしながらちょっと検討してみるという話でありましたけれども、今のところ先ほど言った、やり方を変えるという話にはまだなっていないんですけども、その辺については医療政策室で今検討されています。

#### 《勝又委員》

これ最初から問題になってまして、病棟単位なんですよ、急性期とか何とか。ただ、実際のところ一つの病棟でいろんな患者がいて、超急性期から慢性期の患者さんまでハイブリッドで入ってるんですよ。これ、乱暴な分け方はちょっとできないのが実際のところで、何とかその定義をちゃんとはっきりさせないと、今のところは、病院が、いいねっていうかな、このくらいですっていうのもただ数を出してるだけなんですよ。その定義を今は作らないと、本当のところが見えてこないんじゃないかっていう話はずっと前からしてたんです。他の県と違う定義になったりしても、まずいんだろうなっていう話も、前回出ましたし、日本でそういうのは、厚労省の方で出してくれば一番いいと思うんですけども。

いずれにしても、何かの目安というか、基準がないと、本当の数字が出てこないんじゃないかなという。今までの話の中では、そういう感じでした。

### 〈高橋議長〉

今そういう感想を含めてのことでもございましたが、前から課題になってるという、もう少し率直に腹を割って話をし、ガイドライン、あるいはどんな区分をするかということについては、お互い距離のない形で話し合った上での整理が必要になったと思いますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

### 〈岩井委員〉

資料1の8ページ、進路選択セミナーの開催について説明をお願ひしたいと思ひます。ご案内のように、介護はどんどん増大している中で、介護職員の確保が大変苦勞している事業者はどこも同じ状況です。私の方でも、県内の介護職の養成の専門学校を回ったんですけれども、もう専門学校に入学する生徒も減ってきてるし、もう募集停止をしなきゃない、というふうな状況にまでなっています。ところが、介護がどんどん増えますので、どうしても必要な職種ですが、保健所さんでこういうセミナーをやられてると大変ありがたいなと思ひてます。

セミナーの内容とか、あるいは参加の人員等がわかればお知らせいただきたいと思ひます。

### 〈前澤長寿社会課長〉

介護職のセミナーにつきましては、各管内の中部、胆江、両磐圏域ごとに1か所ずつ開催いたしました。

まず中部に関しましては8月の4日、18名の参加がございました。胆江圏域につきましては、8月の9日で7名の出席がございました。両磐圏域では8月の5日に実施いたしまして、6名の出席を得ておりました。

高校生で、一年生から三年生の方に出席していただいたんですけれども、アンケートを取りましたところ、「介護の仕事がわかった」とか、「これから介護を目指していたんだけど、そのままその道に進みたい」という、概ね好評をいただいております。

この際、高校の進路の先生方とも、生徒の出席をお願ひしに行った時にお話を伺ったんですけれども、やはりこのセミナー、胆江圏域では3年目なんですけれども、結構その道に進んでいる生徒さんがいるということは聞いております。

### 〈高橋議長〉

どうも介護問題は大きな職員不足といいますか、定着率が悪いところがあります。いろいろ介護士の皆さんの横の情報があつて、賃金レベルの高いところに移行しやすいというのもあるようで、大きな社会問題になってるということですから、この地域でも、連携対応できるような、指導をぜひ保健所さん中心にお願ひできればと思ひます。

### 〈小沢委員〉

今の介護人材の件ですけど、このようなセミナーのあり方をひとつも否定するものではないですけど、率直にお聞きします。10何人釣れたというようなレベルで、これから2025年、あるいは現実の介護士の不足を補う有効的な手だてになるんでしょうか。

私とすると、県南局にすべて任せるといふ気持ちはないんですけれども、市だけではとても

対応が難しいと。例えばシルバー世代の介護従事者を、強制的にと言うか、ボランティアも含めて大量にお願いをする、そしてその介護に携わった人たちが、万が一、家族、本人が介護を必要とする際には、ボランティアをされた方々から優先的に介護のサポートが受けられるというような仕組みでも作らない限りですね、「高校生で反応がよかった」「介護職に就いた方が1人2人いてくれました」というレベルでは、と思うんです。ちょっと辛い質問かもしれませんが、全く足りないのではないかと。市と違って県ですから、我々の一歩も二歩も先に行くような考えと実行、あるいはそういうふうな計画があれば教えてほしい。

#### 《藤原部長》

先ほど載っていたセミナーについては県南局独自の取組ということで、一応掲載しているんですけども、介護人材の確保については、県全体として、県庁の長寿社会課を中心に、いろいろな対策がとられております。

一つとして、参入の促進ということで、いろいろ介護の仕事のイメージアップを図るための、さまざまな取組もしておりますし、それから、キャリア支援員というのを配置いたしまして求人求職のマッチング、これらは職安とは別にですね、マッチング支援を行っております。

その他にもいろいろと処遇の改善についての取組ですとか、あるいは専門性の向上ということで、いろんな研修とかを受けられる機会を作ったり、あるいは介護ロボットの導入とかについても、現在はいろいろな取組を進めていることです。

また、最近では外国人の参入についての環境の整備についても検討を始めているということで、全体としての取組というのはそれぞれで、県の方では全体としてやっているんですが、さらに振興局として独自の視点で何かをということ、その中でやはり、若い人たちに理解を得ること、それから学校の先生たちに理解を得ることも重要じゃないかというご指摘があって、今回は胆江だけじゃないんですけど県南広域振興局管内にある高校を全部回って、説明して、医療職と介護職、それから保育職と、三つについてそれぞれのセミナーを夏休み期間中に開催したということです。

確かに取組としては小さい取組ではあるんですけども、振興局独自の取組として、更にまた、県の取組に追加するような形で行っているということで、県全体としてはもっと大きな取組をしているところです。今市長からも御指摘があったようなそういった取組というの、確かに視点としては必要なことなのかなと思いますので、県庁の方ともそういったお話も伝えて、さらに取組を加速させていきたいと思っております。

#### 《小沢委員》

結果が出ていけばいいんですよ、やってますというような。

それで、私奥州市長なんですけれども、勉強不足は反省はしてるところですけども、今副所長が言ったこと、これを「県と連携して、我が健康福祉部も対応します」などという報告を一度も受けたことがないんですよ。であれば県南振興局と協力して、こういうふうな部分は奥州市もその担当者がついて、連携でさらに大きな広がりを持って対応しようと、あるいは隣の席に町長がさんいっちゃうけど金ヶ崎とも連携してやろうと。できれば、岩井さん高橋さんいっちゃうけれども、社会福祉協議会でも、情報共有して、一つでも大きなネットにして、多

くの人たちに関わっていただくような。

介護職員というものに対する、その仕事自体に対して、極めて重要な仕事であるという認識をすべての人たちに持っていただかないと、若い人たちも参入しないというような部分からすると、今の話は、一生懸命やられてるんでしょうけれども、もう県だけでというよりもオールインワンでやっていくような取組で、「我々県南振興局では」とか、「岩手県全体では」って言いますが、残念ながら、人口規模が県で2番目が3番目の奥州市でさえ県との連携が取れているという実感がないんですよ。

もうこれは県に任せるとか、市町村に任せるとかという話のレベルではないと。その辺のところですね、できれば、奥州保健所の副所長の方から、県に上げていただいて、少なくとも奥州保健所が音頭を取りながら、こういうふうな形でまずは県南局を中心に、県や市町村という垣根を取って、介護職、あるいは介護職ってのはこれだけ重要な仕事である、尊き仕事だ、という風なPRを進めていくようなことをしていかないと、現実には人がいなくてベッドを開設できないという状況ですからね。

私もやらなきゃならないということ責めてるわけではなく、一緒にできる方向を、もう少し前向きに考えていただく、我々の方から言ってもいいんですけども、どちらかという流れ的には県からどうですかって言われると我々もよしよっと思いついていけるような状況ができる原理ですね。

「やっています」じゃなくて、「ここをこうします」というような、実践を伴うような形で、ご提案をしていただくと、我々のような基礎自治体とすれば、岩手県の力にすぎるところが多いものですから、そういうふうな御配慮をお願いできればと思うところがあります。

#### 《岩井委員》

県庁の、福祉部署とも話した経過があるんですけども、県の教育委員会と一緒にあって、今、高校再編をいろいろやってるようですけども、かつては福祉科を設置した高校もあるんですけども、さっきお話ありましたように、生徒の中にはお年寄りのお世話をしたいという生徒もいるわけですね。その人達を、介護だけが人材不足ではない事象も承知しているんですけども、そういう生徒さんを介護の方に向けるようなカリキュラムを組むとかですね、いろんなことを高校でやってほしいと思います。総合学科とかいろんな高校がありますし、再編計画やってますよね。

ぜひ、教育委員会と一緒にあって、このことに取り組んで欲しいというのが、私どもの願いの一つでございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

#### 《高橋議長》

やっぱりこの人材育成、あるいは確保と、こういう点からは、学校教育との連携は大事だと思いますし、奥州市長さんが話されたとおり、保健所と地方自治体は、特に垣根を作ってるわけじゃないですから、共通課題に対する連携と協調という点をもう少し力を入れてはどうかとか、こういうものであったと思いますので、ぜひその件については、お願ひしておきたいと思ひます。

#### 《松本委員》

歯科保健対策の件で、一つだけ言わせてもらいたいと思います。

高校生に対してですね、歯科講話とブラッシング指導を毎年 3 校くらいやってるんですが、私も金ケ崎高校の校医をやってまして、3 年ほど前にやったんですが、結局ですねブラッシング指導が大変でして、歯科衛生士さんの方も非常に辛いんですね。衛生士さんも嘱託の歯科衛生士で、腰が痛い腰が痛いと言いつつですね、皆さん汗だくになって、一人一人のブラッシング指導をやってました。

こういうことがあってですね、見てると本当に歯科講話とブラッシング指導がメインなんで、衛生士さんにもっと来ていただければな、というふうに感じておりました。

保健所の方で、衛生士さんを集めているんだと思いますが、もうちょっと多めに集めていただくか、あるいは歯科医院に勤めている衛生士さんに声かけするなりしていただければなと思っておりました。

#### 《小野寺委員》

先ほど関谷先生からもお話あったんですけど、ここ数年間、地域医療構想ということで、三師会または奥州市、金ケ崎町さんとお話しさせていただいたんですけども、先ほどもあったように一番基礎にある病床の種類とか、そういったのがないとやっぱり計画的に作ったとしてもずれが出てくると思うので、その辺の精査もよろしくお願ひしたいと思います。

#### 《遠藤委員》

会長方が先ほどおっしゃいましたけれども、2025 年は、退職する人の半分しか入職しないとされていて、いくら高校生とか、そういう若い人材を入れていったとしても、なかなかどの職種も足りないというようなことになっていると思います。

介護のところも足りてないと思いますけどもやっぱり看護師、それから私のところでも看護補助者が大事で、看護のサポートをする職員として欲しいわけですがけれども、どんどん、看護師も医師の業務とかにタスクシフトして行って、特定看護師とかそういう方向になってますので、補助者さんとか、そういうことの育成が非常に大事になってくると思います。

高校生とか、卒業をする人だけじゃなくて、今いる人材の人達をどういう風に圏域で活用しているかというところで、例えばそういうヘルパー研修に対してお金をおろすとか、そういう風な具体的な取り組みを行っていただくと、人の活用っていうことができるのかなと思いました。

#### 《阿部(保)委員》

災害医療の関係で、緊急時の対応につきましては、各組織団体とも訓練あるいはマニュアルをお持ちのことと思います。災害がひとたび発生しても対応訓練に臨むに当たって、関係機関の受け渡すべき情報であったり、物資だったり、あるいは要救助者、患者さん、これの課題がどこにあるかと、そういった思いで、今回の訓練に臨みたいと考えているものです。

#### 《杉本委員》



初めて出席させていただいて、細かな数値、保健所運営あるいは医療関係の現状がはっきりわかって非常に勉強になりました。小中学校の校長会として、この現状を見ながら、できることを今後考えていきたいなというふうに思いました。

#### 《勝又委員》

さっきの話ですけども、病床機能はですね、僕の印象がすると、この地域はバランスは決して悪くないと思うんですよね。結構いいバランスであると思ってます。あまりいじらなくてもこのまま行けるんじゃないかなっていう気はしてるんですけど、ただやっぱり、この地域の役割分担と、それから集約、ある程度集約や、選択と集中というのはどうしてもある程度必要になるんじゃないかなと思っております。

#### 《阿部（俊）委員》

この地域はいまだに、また脳卒中とか多いと思うんですが、概要を見ますと、ちょっとその脳卒中对策、プランが少しやっぱり尻すぼみになってきたのかなという印象を受けました。

私ども金ヶ崎町内は独自に、健康診断に心臓病検診を入れたり、あとは食塩摂取量の推定なんかを入れて、そっちの方の対策を少しやっているところがありますが、まだまだ足りないような気がしますのでそちらの方も充実をお願いしたいなと思っております。

#### 《仲本所長》

途中ですけども、一言私の方から。

まず地域医療構想が不十分という話は、実は私も途中から参加して、おっしゃるとおり、厚労省の定義とかちょっと相当いい加減だなというのは思っています。ただそれはやっぱり統計ですので、他の地域と離れていくことはできない部分もあるんだろうと。

あと、遅れているという表現は確かにおかしくて、むしろ他の地域より非常に熱心、大変本当に真面目に取り組んでいただいているっていうのは、実はすごく私は聞いて思っています。

そういう意味では、協議の場で多職種の方と協議しているのは非常に重要なんだろうと思っていまして、できるだけ私も尽力したいと思っております。

昨日実は前沢高校で、歯科ブラッシングの研修とかやったのですね、実は私見学に行きまして、非常にすばらしい試みで、生徒さんも熱心にやられていて、おっしゃるとおり、歯科衛生士さん大変だになってというのは思いましたけども、2クラスで4人来ていただいて、2人で1クラスずつ対応をしておられたので、生徒さんも真面目でしたので、うまくいったのかなという印象を持っております。

それから、介護職人材等もですね、介護士看護師に限らず、医者もそうですよね。これも実は県だけでなく、日本全国同じような問題で、数日前も奥州市の方で、医師の養成のために奨学金を増額みたいな話が出たものですから、奥州市の担当者の方にちょっとお会いしてお話を聞かせていただきました。県の取組とかも私も今勉強しているところです。

魅力ある職場になるための研修とかですね、あるいは私の元いたところの関係で言えば、やっぱり留学できる機会を増やすとかですね、そういうことをしてまた戻ってくるとかそういうような取組もできるんじゃないか。

あと、外国人の労働者ですね、きちっと教育して、外国人でもきちっと働ける人材を確保できるような政策もできるんじゃないかと思えますし、私はもう前職に比べてここ、こちらの方がずっと、縦割りが少なくてですね、むしろ皆さんといろいろお話できるのは多いので、私は非常に今楽しくやってるんですけど、やはりやりがいを持ってやらせていただきますので、というふうに思います。

#### 《高橋（範）委員》

初めての会議で、大変いろいろな事業、お仕事をやってるんだなと実感いたしました。先ほど岩井会長がおっしゃいましたように、やはり私どもも介護職不足については、大きな課題問題というふうに考えております。本当にこれが解消になってくれればこれに越したことはないなと常々思っているところでございます。

今日いろいろなものを見させていただきましたので、いろいろなことを御相談させていただきながら、事業を進めたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

#### 《及川委員》

初めて参加させていただきました。

食改善は、脱脳卒中ということで、塩分摂取量を女性が6グラム、男性が7グラムということ、地域の方に普及しております。

それから私は個人的に一般家庭の主婦としまして、介護職、介護保健師とか介護介護士の方々には非常に感謝しておりますので、そういう方々たちには、特別な対応をしていただきたいかなど。

いろいろな面で本当に感謝してますので、患者に対してもですし、私は年寄りを抱えてる身なんですけど、その介護をしていただくという、デイサービスにしても、ショートステイにしても、いろいろサポートしてしていただきまして、本当に感謝してる場所なんですけど、そのサポートのヘルパーさんたちですか、介護士の方々も、一般の家庭からの苦情でなんかピリピリしてるんじゃないかなって印象を受けるんですよ。入所者に対しても腫れ物に触るような接し方するような感じで。

なので、もっとこうリラックスできるような、そういう対応を上の方ですて、一般家庭の方もちょっとそういう、見ていただいている感謝の気持ちを忘れないで、受けてほしいなと思うんですけど。

話を聞いてると感謝の気持ちがいっぱいありすぎて何かこう、本当に特別な待遇というか、介護士さん、看護師さんたちには、特別な対応をしていただきたいかなという気持ちでいっぱいです。

#### 《千葉委員》

民生委員は市民の皆さんの心配ごととか、そういう課題を伺って、専門機関につなげるという役目を果たしているわけなんですけど、大変内容が多種多岐に渡り、しかも複雑化しているということで、大変対応に苦慮しているというのが現状でございます。

最近の例ですね、こういったような話がありました。

8人家族で、子供さんが4人いて、下の子供が双子で、同時に肺炎に罹ったという家庭がありまして、たまたま7月下旬の辺りだったので、開業のお医者さんから胆沢病院の小児科を紹介していただいて、ちょうどお2人のお医者さんが配置されたという時期だったようなので、運良く入院させていただいて、おばあちゃんとお母さんとで付き添いしながら、急場をしのいで良くなったという事例を伺ったことがありまして、大変いいことだったなっていう思いをしたことがございました。

小児科については、中部病院、あるいは磐井病院というふうなところ、あるいは済生会病院と、近場にはあるんですけども、やはり地元において治療を受けられる、それが家族構成の状況で、どうしても長時間はかけられないという家庭も、中にいろいろあるんですね。そういうことからしますと、どうしても近場の大きな病院に小児科の医師が十分にいらして、そういう市民の子供さんの治療を保証していただけるということを、実現していただいているということが大変よかったなと思いますし、今後もさらに充実させるようにお願いしたいと思います。

#### 《佐藤委員》

先ほどの岩井さんや奥州市長さんの話はすごくうれしかったですし、それと及川会長さんの話も、やはりよく見ていただいているかなというふうに思いまして、やっぱりちょっとうれしかったです。

まさに人が足りなくて、どの施設も、新しい施設を作っても稼働できない状態が続いております。それで、ホームページの作り方とか、今更ながら募集するに当たって、若者はスマホが一番受けるので、それに提供するようなホームページを作ってくださいとか、そういうレクチャーを受けるんですが、なかなかそれにも応じてはいますけれども、それでもやっぱり、新しいところとかの新設の職員は、なかなか出てこないところで、介護ロボットに関しましても、なかなか人材というか補充にはならないのかなというふうに思っていました。

もう少し技術が進めば、何とかなるのかなと思ってますが、現状では介護ロボットっていうのは、見守りをもっと少し楽にできる程度のものなのかなというふうに思ってますけれども、今回初めて参加させていただきましたが、いろいろな皆さんの気持ちも、本当にありがたかったですし、これから施設としても、人もいろいろ探しながら頑張っていきたいなと思っております。

#### 《菅原委員》

私は、50代の頃に親2人を介護して、母親を98歳で看取った経験があるんですけどね。その頃を思い出しました。介護保険が始まって間もない頃で、やむにやまれず施設にお願いしたんですけども、施設に預けるのは初めてだったので、不安、ちょっと心配だったんです。それで、毎日行きました。当時は仕事をしてたんですが、5時に仕事が終わると、すぐ施設に駆けつけて食事の介助しようかなと思うんですけども、当時、その施設は4時が夕食時間で、間に合わないんですね。あれっと思って、今度はお昼時間に行って、食事の介助して、せっかく来たんだから足とか汚れているから洗ってあげようとか、職員の方に教えてもらいながら、いわゆる家族ボランティアみたいなことをやり始めたんです。

その施設が、勝手にやっついていいのかなと思って聞いたら、「どんどんやっついていいから、家族

だからいいから」と言われたので、あそこの施設で随分いろんなことを教えてもらいました。食事も、介護保険が始まって2か月ぐらい経ったら、「菅原さん、あなたが来てお母さんと食事できるように、5時からの食事に変えたからね」と言われて、ああうれしいなあと思ったの覚えてます。

私が母親の面倒を仕事しながらやってるのを見て、他の家族の人が来ると「施設なのに、家族がそんなに手を出していいの？」と言うから、「いや私は断ってやってるけど、いいみたいだよ」と言ったら、「私もちょっとやろうかな」とかやりだした人がいて、そこの施設では家族ボランティアが、5人ぐらい出てきたんです。

当時も実は介護職の手っていうのは、足りなかったのです。足りないから、どうしても雑になってくるので、そこを何とかフォローできないかなあと思って、やり始めたらすぐ面白くなって、ちょうど社会福祉協議会でヘルパー養成講座があったので、そこに参加して資格を取らせていただきました。

母親が結局そこの施設に13年お世話になったんですが、その間私が仕事をしながら親の介護も施設でお願いできて、仕事も社会福祉協議会で資格を取ったら、パートしないかと言われて、そこでやり始めたりして、結構充実した介護ができたんじゃないかなと思っています。

一般の人や家族の人も、介護を嫌がる人いるので、強制は駄目だと思いますが、自分でやろうと思ってる、遠慮してる家族がいたりするので、その辺上手に使っていただけたいんじゃないかなと思います。私はすごく楽しかったです。

#### 《横山委員》

今回資料を送っていただいたのを見させていただいたことや、この会議で皆さんのお話し合いを伺うことで、本当に少しは保健関係のアンテナが高くなり始めるかなという気持ちでいるところです。

#### 《仲本所長》

阿部先生等からお話のありました、脳卒中については、それは本当に課題というか、県の方、地域の方が述べて参りましたので、すごく考えてまして、今回、予算にはなっていないんですけど、来年度以降ですね、まず禁煙と減塩だと。で、その栄養教育だと思いますので、小学校とか栄養士さんとかを伝達させていきながら、出前講座を増やして、栄養なり運動なりの指導みたいなことをしていったらいいんじゃないかというのは保健課の方にちょっと進言しております。

それから、民生委員の方、本当にありがとうございました。実は県のひきこもり委員というのを拝命しまして、今回岩手県だけが、民生委員の方が実際に調査をされて情報の数字を出したということで、素晴らしいデータになってると聞いておりましたので、引き続きよろしく願いいたします。

それと介護ロボットの話もあつたんですけど、これまた今後、私の個人的な話なんですけども、今はロボットまで行く前の、介護する方の補助器具みたいなものなんです、腰痛を起こさないための。そういう機械とか、そういうのもかなり最近出て来ておりますので、そういう納入も考えて、介護される方が楽しく楽に仕事ができるようになってたらいいいのかなというのは、

アイデアとして持っております。

#### 《関谷委員》

介護の方の職員の不足とかありますし、それから、医療関係っていうのはどうしてもこういう、有効求人倍率が多分にあると、医療系っていうのは給料が安いっていうのがあってどうしてもこう集まることが少ない。

逆に言えば、ある程度不景気になった時には、ある程度扱うんですけども。もっともこういう時期というのは、医療系の団体、看護師さんとか医者もそうなんですけども、そういうところも不足してるのは確かなんです。

先ほど小児科の、これもやっと、勝又委員長がいろいろなとこに回って、やっと今度小児科の先生が来てくれた。これは大きなことなんですね。産科を含め、こういうのをみんなでそれこそ、考えていかなきゃいけないなと思っております。

もう一つ、今度はコマーシャルになっちゃうんですけども、再来月 10 月 19 日にですね、市、町民含めて、健康講座を医師会主催で、他の奥州市金ケ崎町、それから他の団体も共催していただきまして、乙ホールでやるんですよ。その講座が人生アドバンスケアプランニング、いわゆる人生の終末、人生会議というのを題にして、自分の最後の、終末をどうするかということをいろいろ考える機会だと思いますので、ぜひ、多くの皆さんに集まっていただければ、と思います。

#### 《高橋議長》

各委員の皆さん、時間がなくてももう少しとかいう部分があったかと思いますが、予定時間になったところでございますので、その他に入らせていただきます。その他について何か。

#### 《遠藤委員》

先ほど関谷先生からお話があった、母子保健の件なんですけど、市の事業としてですね、産後ケア事業ということで、水沢病院で産後うつ予防について周産期の方を対象に、10 月から始めておりまして、非常にお母さん方から好評をいただいておりますので、ぜひまだ皆さんまた周知されてないようで、そういう産後ケア事業というのも市の方で取り組んでおりますので、ぜひ、こちらの方を御利用いただくようによろしく願いいたします。

#### 《高橋議長》

その他特になければ、事務局の方ございますか。ないですか。それではその後も悪くていただきまして会議については以上で終了させていただきたいと思いますがよろしいですか。

#### 《藤原部長》

高橋町長ありがとうございました。

これもちまして、奥州保健所運営協議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。